

ユネスコ創造都市として工芸家の活動が盛んに。市内で活躍する工芸家たちの手仕事に迫り、作品に込められた思いや制作のこだわりを紹介します。

つくる人

Vol.17

にしおか えりな 西岡英里奈さん

電動ろくろを使わず、粘土を手でこねながら形を作り上げる「てびねり」の技法で、日常食器から立体オブジェまで幅広く製作されている西岡英里奈さん。もともとは、専門学校のデザイン科で平面デザインを中心に学んでいましたが、在学中に陶芸に触れたことが、ものづくりへの関心を深めるきっかけとなりました。卒業後は、ものづくりの仕事に携わりたいという思いから、大阪の陶芸教室の講師として働くことになりました。そんな中、師匠の馬川祐輔さん

と初めて出会ったのが、専門学校時代の先生の個展がきっかけでした。先生の個展を見に行った際、「近くで個展を開催している作家さんがいるから、ぜひ見に行ってみたら」と勧めていただき、足を運んだのが馬川さんの個展でした。「作られている方は素朴な雰囲気なのに、作品は鮮やかで力強い色使い。どのような考えから作品が生まれるのか知りたいと思いました」と西岡さん。その思いから2020年に丹波篠山市へ移住。陶の郷の陶芸教室の講師を務めなが

ら、馬川さんに師事し、4年間修行を積みました。2024年に独立した西岡さんは、自宅や市野伝市窯で作陶を続けられています。作品は、成形後に素焼きを行い、ペンガラ（酸化鉄を含む顔料）を塗ってふき取った後、絵の具や釉薬を筆で重ね、最後に本焼きを行うことで、独特の質感と深みのある表情を生み出します。「手びねりの器は重くなりやすいので、見た目の楽しさだけでなく、日常で使いやすいものになるよう心掛けています」とい



催しのご案内

西岡英里奈 POPUP

■日時 8月23日(日)まで
11:00-19:00

■場所 「ろにせら」ギャラリー
(奈良市小西町1-8 axe unit 1F-B)

今後は海外にも活動の幅を広げ、10月にはスウェーデンでの個展も予定しています。「アートの高いオブジェ作品に力を入れ、自身の世界観を多くの人に届けていきたいです」と、その思いを語りました。

栄光輝く

長年の功績や日々の努力を褒め、栄光に輝いた皆さんをご紹介します

叙勲従事者



瑞宝小綬章

あけやま おさむ
明山 修さん(上板井)

長年にわたり兵庫県の教育行政や学校運営に携わり、高校教育の発展に尽力されてきた明山さん。高校の社会科教員として教壇に立った後、1993年には県教育委員会での教育改革に携わり、県初の三部制単位制定時制高校「西宮香風高校」の設置や、「三田祥雲館高校」の創設など、新しい学校づくりに奔走されました。

また、幼児から中学生までを対象とした環境学習プログラムの整備にも取り組み、環境教育の推進にも力を注ぎました。その後、小田高校や母校の篠山鳳鳴高校の校長を務め、兵庫県高等学校社会研究会会長として、兵庫県版高校地歴科の副読本『世界と日本』の作成・編集をされました。

受章について、「家族には長年苦労をかけてきたので、一つの節目として受け止めています。篠山鳳鳴高校の創立150周年に花を添えることができ、うれしく思います」とその喜びを語りました。

大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎FAX 506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎FAX 506-2366

学生・アクション ラーニング



実践農学「農業ボランティアの仕組みをつくらうプロジェクト」後川地区で開始!

神戸大学農学部では、食農コープ教育プログラムの一環として、1年生向けの「実践農学入門」と、2年生以上を対象とした「実践農学」の授業を実施しています。今年度は「実践農学入門」を大山地区で、「実践農学」を後川地区で行っています。

後川地区は、昨年度の「実践農学入門」の受け入れ地区です。昨年度の最終発表会では、後川に人を呼び込む「後川応援隊」の設立を提案した班が市長賞を受賞しました。今年度の「実践農学」では、このアイデアを引き継ぎ、学生が農作業の手伝いをする「農業ボランティアの仕組みづくり」に取り組んでいます。

先日、その第一歩として、学生4人が1泊2日の合宿を行いました。昼前に後川に到着し、農家のもとで農作業。夜はバーベキューをして宿泊。翌朝は6時に起床し再び農作業。この合宿を通して、学生がボランティアとして参加するプログラムの具体化が進み、より良い内容にするための改善策も多く出されました。一方で、学生をどう呼び込むか、後川までの移動手段や、農家とのマッチングをどうするかなど、課題も見えてきました。

今回は、黒枝豆の収穫を迎える10月に、より多くの学生を集めて実施する予定です。今後の動きにぜひご期待ください。



今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、お越しいただいた順に面談いただきます。

と き 9月10日(木) 13:30~16:00
ところ 城東公民館 展示室
問い合わせ 市長公室 ☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **HOT** とーく

丹波篠山の時代をつくろう



デカンショ節を全国へ

令和8年度日本デカンショ節大賞

今年は応募作品238点の中から、7点の作品が選ばれました。県内だけでなく関東など全国から応募がありました。

優秀賞の酒井成明さんは8月に98歳になられます。最近の丹波篠山市は特に農業などに注目され人気のまちになっていることをうたわれました。同じく優秀賞の植良哲夫さんは、昔は田舎のイメージが強かったのが、京都・大阪からも近く、便利になったことをうたわれました。「こんなに大勢の方が来られる立派な授賞式に出られて感激です。とてもうれしい。」と話されました。

大賞

- 濠の水面に 舞い散る桜 風に吹かれて 花筏 (村岡孝司)

優秀賞

- 唄い継がれて 未来へつなぐ デカンショデカンショの 節の良さ (前川鈴代)
- 丹波篠山 歴史は移り 今じゃ農都で よみがえる (酒井成明)
- たんばーささやーま やまおくなれど きょうとーおおさか いちじかんー (植良哲夫)

国際賞

- Tambasasayama and Walla Walla city
a good relationship will last forever (Seima)

子ども・若者賞

- 丹波篠山 ニコニコ笑顔 ささっ子みんなで 輪になって (衣川一葉)
- 丹波篠山 城跡からは 歴史を感じる この景色 (村田連翔)

(敬称略)



黒豆ナイターで披露

7月7日に千葉ロッテマリーンズの本拠地、ZOZOマリンスタジアムで行われた丹波篠山 黒豆ナイターでは、民謡アーティストのSeimaさんがデカンショ節に合わせて、私、観光大使、まるいの、球団のチアパフォーマーの皆さんと一緒に踊りを披露しました。



♪ NHK のど自慢 放送 ♪

9月13日(日)にいよいよNHKのど自慢が放送されます。会場は田園交響ホールで、丹波篠山市では8年ぶり2度目の開催です。前日の予選会で選ばれた約20組が出演します。皆さん、ぜひご覧ください！

放送日時
令和8年9月13日(日) 11:40~



(左) 8年前ののど自慢チャンピオンで現在はプロとして活躍中のSeimaさん



地元で働く選択肢

新型コロナウイルス禍以降、地方での就職や移住を検討している人が増え、地方回帰が注目されています。

市内ではどんな企業が活躍しているのか、インタビューを通じて紹介します！
創造都市課 ☎552-5796

専務取締役に聞く！
ここで働く魅力



丹波たぶち農場の特徴・魅力

社内の平均年齢がかなり若いところが特徴であり魅力です。

また、生産から加工・販売までを一貫して行う「6次産業化」を展開していて、現在は新たな加工場を建設しています。自社で採れたいちごや枝豆などのテイクアウトがメインの直売所・カフェのオープンに向けて、準備を進めています(2027年1月中旬オープン予定)。

資格取得の支援について

実務に必要な資格は、会社が費用を全額負担し、取得に向けてサポートしています。準中型免許や大型特殊免許、フォークリフト、パワーショベル、さらにコミュニケーションに関する資格など、「農業のプロ」として必要な資格はすべて会社負担で取得可能です。

株式会社丹波たぶち農場

前岡あんりさん 24歳
勤務年数：4年目
出身：丹波篠山市
卒業校：篠山産業高校・兵庫県立農業大学校

農業の道を志したきっかけ

中学校の時のトライやる・ウィークです。将来のことを考える際、体を動かせる仕事として農業を思いつき、市内の農家さんに1週間お世話になりました。そこで「農業って楽しいな」と感じたのが始まりです。

地元で働こうと決意した理由

農業大学校時代に他の地域で黒豆の栽培実験を行った際、それぞれの土地で育つ農産物の違いを肌で感じました。やはり生まれ育った丹波篠山の黒豆のおいしさは特別で、これほど恵まれた環境で作られる地元の農産物は本当に素晴らしいものだと思えたんです。「本場の丹波篠山のおいしさ」を、日本中、世界中の人にもっと知ってほしいという思いが、私が働く一番の原動力になっています。

数ある農家の中から「丹波たぶち農場」を選んだ理由



学生時代の授業で1カ月間、住み込み研修を受けたのがきっかけです。自分の目で職場の温かい環境や雰囲気を確認、「ここで働きたい」と思い、そのまま就職しました。先輩方も皆さんすごく温かく、お昼ご飯を一緒に食べに行ったり、夜にカラオケに行ったりするほどアットホームな職場です。

仕事のやりがい

毎年少しずつ違う作業や新しいことに挑戦させてもらえるので、常に学びながら成長している感覚があります。一番のやりがいは、観光農園でお客さまの生の声を聞けることです。「毎年楽しみにしてる」と言ってくださる方や、毎週のように足を運んでくださる方もいて、「やっぱりおいしかった」と笑顔で言っただけの瞬間が本当にうれしいです。

地元で就職を考えている高校生・大学生へメッセージ

周りを見ると市外に出て働く人が多く、悩んでいる方もいると思います。でも、地元で働くメリットはたくさんあります。家族と一緒に過ごす時間が長く持てることはもちろん、自分の仕事が誰かの役に立っている実感や、お客さまを身近に感じられることが地元で働く大きな魅力です。



伝統の味を守り、最先端技術と“6次産業化”で挑む丹波篠山の未来農業

丹波篠山市を拠点に、こだわりの農産物づくりを行う株式会社丹波たぶち農場。「自家製堆肥」による土づくりをし、化学肥料や農薬を5割削減した「特別栽培米コシヒカリ」や、「丹波篠山産黒大豆(黒豆)」、餅米「マンゲツモチ」などを生産しています。



株式会社 丹波たぶち農場

所在地：丹波篠山市口阪本158
TEL：593-0545

